部門賞　受賞者の紹介

環境工学部門功績賞を受賞して

鈴木 康夫
JFE エンジニアリング株式会社
環境本部

この度は、思いがけず環境工学部門功績賞を賜り、誠にありがとうございました。個人的認識では第２技術委員長ののち環境工学部門長を拝命したものの、部門長当時の働きは惨憺たるものだったと感じています。このような貧弱な部門長であっても脈々と活動が継続できるところこそ、歴史があり多士済々を擁する環境工学部門の素晴らしいところではないでしょうか。そのうえに功労賞とは、歴代部門長の皆様はじめ部門の皆様の温かいご指導・ご支援のおかげです。感謝に堪えません。あらためて御礼申し上げます。

部門活動の中で印象深いのは、東日本大震災直後の環境工学総合シンポジウムで提言させていただいた、清掃工場の防災拠点化です。幸い、その後環境省の施策となり、日本各地に提言を発展させた形で、防災拠点と銘打った清掃工場が次々と建設されたことは、部門としても実に喜ばしい限りといえます。

温暖化対策や SDGs の実現など、環境工学部門が牽引すべき課題は山積です。人類の未来に欠かせないキーワードである「環境」を最重視した諸兄の努力を今後も生かし、環境工学部門が発展することをお祈りする次第です。

環境工学部門研究業績賞を受賞して

土肥 哲也
小林理学研究所

この度は、栄えある環境工学部門研究業績賞を賜り、大変光栄に存じます。部門の皆様方をはじめ、関係者の方々に心より御礼申し上げます。

今回、研究業績賞の対象となったテーマは低周波音です。近年、騒音の中でも周波数が 100 Hz 以下の「低い音」について環境問題になる事例が増えており、関心が高まっています。人間は数十 Hz 以下の音を聞くことができますが、高い音と異なり低い音の到来方向を聞いて判断することは困難です。通常の騒音であれば、複数のマイクロホンを用いた音源位置の可視化装置が実用化されていますが、低周波音の場合は波長の関係で装置が巨大になってしまい、実用化が容易ではありません。今回、波長が長い低音の特徴を逆に利用したマイクロホンの配置を提案し、実際の機械音の音源位置を把握することができました。今後は、世の中にまだ知られていない低周波音源を見つけたり、低周波音を利用して社会に貢献する研究に取り組んだりしたいと考えています。今後とも、皆様方のご指導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

環境工学部門国際交流賞を受賞して

浦島 邦子
文部科学省科学技術・学術政策研究所

この度は、環境工学部門研究業績賞という素晴らしい賞を賜り身に余る光栄です。部門の皆様方をはじめ、これまでに多大なるご支援、ご指導を頂いた関係各位に厚く御礼申し上げます。

今回、受賞のきっかけとなったのは、沖縄で開催された環境工学部門主催の IWEE 2019 です。20 年以上の付き合いのある、海外の研究仲間を誘って、一緒に沖縄で有意義な時間を過ごせたことは、今でもとても良い記憶として残っています。特に、それまであまり天気が良くなかったのに、バンケットで見れた夕日が沈む景色は、忘れられない思い出です。

研究は、生みの苦しみの連続ではありますが、一方で学会や研究会などでの研究成果の発表を通じて、国内だけでなく、世界中に友人・知人ができることは、研究者の醍醐味といえます。場所も文化も違う研究者との交流を通じて、自分自身の見聞も広がり、ものの見方も変わることも多々あります。そういった日頃の研究活動が、今回の受賞につながったものであり、私をサポートしてくださっている友人たちと一緒にいただけたものと感じています。